

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年8月26日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4672700095
法人名	医療法人 蒼風会
事業所名	高齢者グループホーム りんどう
所在地	鹿児島県南九州市川辺町平山6910番地 (電話) 0993-56-4976
自己評価作成日	平成25年7月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成25年8月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

市街地の中心部に建ち、近くには市役所、消防署、雑貨店、魚屋、肉屋等があり、生活上安全でかつ利便性が良い。母体は車で5分程の所にある中規模の精神科病院で、内科の契約医療機関も別があり、健康管理に関してはタイムリーに連携が図れるとともに、入院治療を含めた医療面のサポート体制は整っていると考える。建物は段差が無く、面積的にも広いため車いすや歩行器を使用するなど身体機能が低下した際にも対応が出来る構造となっている。中庭と裏庭があり、ちょっとした菜園を行うことが出来、入居者も季節を感じながら、栽培や収穫の喜びを味わっている。職員は常勤率が高く、離職者も少ない。入職後、国家資格取得に取り組み成果を出すなど、積極的な職員である。心ならずも認知症を発症し不自由さを抱えながら暮らす入居者の方々に、この暮らしも満更でもないと感じていただけるように、また、ご家族にあたっては、ここに委ねて良かったと思っただけのように、チームでのケアを根拠をもって、まごころを込めて届けられるよう、熱心に行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は、散歩や買い物などで地域住民とふれあいながら生活できる環境にある。
- ・母体法人の医療機関が近くにあり、緊急時の対応などの医療連携体制が整っている。
- ・防災関係は、地域住民が自動通報装置に登録し、事業所の職員が緊急時の対応などの協力体制ができています。
- ・自治会に加入し回覧板等で地域と情報のやり取りを行い、認知症についての学習会をこれまで数回開催し、地域住民の相談役となっている。
- ・管理者は職員が働きやすい環境作りに配慮し、職員はケア対応等のさらなる向上を目指している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている</p>	<p>事業所の理念と母体法人の理念とがあり、事業所内に掲示し、研修等を通じ理念浸透や実践につながるよう努力している。</p>	<p>理念をホーム内に掲示するとともに、パンフレットにも掲載している。理念について研修を行い地域住民の一員として、その人らしく生活できるように確認しながら、理念の共有と実践に取り組んでいる。</p>	
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>自治会に加入し、近所の商店をなるべく活用する等つながりを作っている。</p>	<p>事業所自体が地域の一員として自治会に加入し、認知症についての学習会の開催を行ったり、回覧板を利用者と一緒に届けたり、ボランティアの訪問を受けたり、保育園児や学校の児童生徒との交流をしている。日常の買い物など、近所の商店街を利用し、地域との交流を大切にしている。</p>	
3		<p>○事業所の力を生かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。</p>	<p>地域住民向けの認知症についての学習会を、数回開催し、啓蒙活動を行っている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>行政、地区の民生委員、ご家族代表、母体病院の高齢者病棟の責任者を委員に2ヶ月に1回、定期的を開催し、事業報告、待機状況、その他の協議を行い、意見を頂いている。</p>	<p>会議は定期的を開催している。家族や民生委員・行政担当者・事業所関係者・知見者が参加し、事業報告や外部評価結果報告・敬老会等のイベントの計画・子ども会との交流の提案等、参加者からのアドバイスや意見があり、運営に活かしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者とは頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>不明な点の質問や、運営推進会議の折りなどに情報交換を行っている。メールでのやりとりも最近では増えている。</p>	<p>市担当者とは利用者の相談や事業所の運営・報告を行い、指導やアドバイスをもらっている。ホームの行事への案内をしたり、確認のメール交換も行き、協力関係を築いている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>玄関の施錠は、現在の所行わないようにしている。身体拘束については、怪我の可能性が著しく高いと判断した時に、家族との協議の基、同意書を取り交わし、一時身体拘束を行った。</p>	<p>身体拘束をしないケアのマニュアルを作成し、勉強会で研修している。昼間の玄関は施錠せずに職員間の連携で安全で自由な暮らしを支援している。事故防止のための身体拘束については、家族に説明し同意書ももらっている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待防止法の学習会を職員主催で行い、日頃から虐待に至らぬような意識付けを行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在日常生活自立支援事業、成年後見制度を活用している入居者はいないが、学習は行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	重要事項の説明文を作成し、十分に説明をし、同意を頂くようにしている。また、内容に変更が生じた場合は、個別に説明を行い、改めて、同意を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時、ケアプラン変更時等を通じ、ご家族の状況や要望などを伺うようにし、運営に活かすようにしている。外部へ表せる機会については外部評価時以外は特に設けていない。	利用者からは日々の関わりの中で何でも言ってもらえる雰囲気作りに留意し、時間を取ってゆっくり懇談している。家族からは面会時などに意見や要望等を聞いている。出された事項は職員で話し合い運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	普段から、情報交換を行い、組織内の部署として、また、部署内での運営に活かすようにしている。	2ヶ月に1回の職員会議の時に職員からの意見や要望を聴くようにしている。日常的にも職員からの意見等を聞いている。出された意見は運営に反映するよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>定期的な昇給や、資格手当、有給休暇制度の活用等行っており、給与面に於いてもモチベーションにつながるようにしている。また、職員の提案を積極的に支持するようにしている</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人の教育委員会主催の学習会や、職員主催の学習会、グループホーム連絡協議会主催の学習会等を活用し、職員の力量アップにつながるような取り組みを行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>南九州市内認知症グループホーム交流会を管理者が昨年度まで運営し、事業所間の交流や学習会を行った。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアプラン作成を通じ、本人の状況や取り巻く状況を把握し、それらをケアプラン関係書類や、入居者台帳に記入し、情報の共有に努め、関わりをいかにすようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアプラン作成を通じ、ご家族からの情報や、要望等を伺い、家族もケアの一員として関わることを確認すると共に、委ねて良かったと思っただけのように、情報の共有と、家族の話も十分に聞き、葛藤する気持ち等を受け止めるよう努力している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアプラン作成時には、状況等から優先順位を考え、ケアを行うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	なるべく出来るであろう事は奪わないケアを心がけ、互いに役立っていると言った気持ちが、生まれるように心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ケアプラン作成時、本人の心の支えは家族であるため、家族もチームケアの一員であるという認識を持っていただくようにしている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>家族との関係は、途切れないように配慮しているが、友人や馴染みの場所などとのつながりは、途切れがちである</p>	<p>入居前の地域の催しなどの情報を本人や家族の協力を得ながら収集したり、帰省時に近所を散歩するなどの取り組みを行っている。関係継続の支援はなされているが、ホームとして、更なる高みへの取り組みを目指している。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>適度に交流が図れるように、座る場所等には配慮し、必要時には橋渡しを行うなどの支援をしている。調理の下ごしらえ等出来る手仕事を小グループで行ったりしている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>積極的に関わることはないが、連絡や要望があった際など必要に応じて対応している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時、また、普段の関わりの中で、例えば健康的に暮らしたい、買い物をしたい、墓参りに行きたい、美容院に行きたい等の意向を確認し支援している。本人からの聴取が困難な場合、家族やこれまでの生活歴等から推察し支援するようにしている。	入居時に本人の思いや希望を聞き家族からの情報を得ている。日々の関わりの中で様子を観察し言葉や表情などから思いや意向の把握に努めている。意思疎通が困難な場合は家族から状況を聞き記録帳類も活用し、職員で話し合い、本人本位に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、これまでの生育歴や、趣味、性格、家族構成等取り巻く状況を含め伺いフェイスシートに記入し共有するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	表情や言動、また、定期的なバイタルサインのチェックを通じて、心身の状態を把握するようにし、本人の行動等から、出来そうなことを抽出し、ケアに活かすようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族には、事前に意向を伺い、主治医には直近の受診の際に直接、意見を伺い、それらを含めて、職員でケア会議を行い、ケアプランを作成するようにしている。	本人や家族その他必要な関係者と話し合い、担当者を中心に介護計画を作成している。1ヶ月毎にモニタリングを行い、6ヶ月毎にカンファレンスを実施している。状況が変化したときは現状に即して作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>生活記録や、特記事項は、業務日誌に記入し、全職員が、情報の共有を行いながら、ケアがなされるようにしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>病院受診や、墓参り、買い物、美容院、自宅への外出など、必要性に応じ、個別に支援するようにしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>近所の、雑貨店、魚・肉屋、洋服店、消防署等必要に応じ、入居者と一緒に出かけ、安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>母体の病院、内科の主治医、他専門医との出来るだけタイムリーな連携の下、適切な医療が受けられ、健康的に暮らせるように支援している。</p>	<p>本人や家族の希望するかかりつけ医の受診が継続できるように支援している。協力医療機関の往診もある。通院は職員が対応し結果を家族に報告している。また、歯科医の往診も1ヶ月に1回あり、適切に医療が受けられるように支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>母体病院の精神科訪問看護師や内科主治医の看護師と連携し、情報交換をし、状態把握につながるようにし、適切な医療を受けられるように支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>昨年度は、入院者はいなかったが、これまでは、入院した場合入院時に、担当医師や看護師等と情報交換をし、入院治療がスムーズに行くように、また早期退院となるように、情報交換を適時行いながら、受け入れ準備をするようにしている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>これまで、看取りを行った方はいないが、重要事項の説明文に、重度化や終末期に関する、項目を明記し、それに沿って支援するようにしている。</p>	<p>重度化や終末期に伴う対応の指針を本人や家族に説明し、同意書をもっている。本人や家族とよく話し合うとともに、職員全員がその方針を共有している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>定期的に、消防職員の指導の下、心肺蘇生法の体験学習や、急変時のマニュアルを作成し、目につくところに置くようにし意識付けを行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防職員の指導の下、定期的に総合避難訓練を行い、協力者との連携もとるようにしている。また、それとは別に職員のための訓練も行い、有事の際に備えている。	年2回消防署の立会いのもと、昼夜間想定避難訓練を実施している。さらに職員のための自主訓練も行い意識向上に努めている。地域住民も自動通報装置に登録し、協力体制もできている。災害時の備蓄もある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いは基本的に丁寧語を使い、傍で接する時には腰を下ろし視線を合わせるなど、人格を傷つけない対応を心がけている。	利用者の人格を尊重する言葉かけや対応に留意している。プライバシーに関しては職員の採用時、個人情報保護についての誓約書をとっている。また、職員の勉強会を実施し、利用者尊重の意識をもち、ケアの実践を確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が、ゆっくり、安心して自己表現できるように、音楽を流したり、傍で話を聞いたり、自室の静かな環境で関わる等している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく、本人のペースを尊重し、本人に尋ねてから、同意が得られれば、その支援を行うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	本人に希望があれば、それに添い、特になければ、こちらの見立てを確認していただき、意向確認が難しい場合は、こちらの見立てで整容の支援をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を入居時に行い、アレルギーの把握をするようにしている。また、毎食、入居者に、意向を伺い、調理の課程で、共に出来そうなことは、一緒にし、ご飯や汁物は入居者に装ってもらおうなど取り組んでいる。	旬の食材を使い利用者の希望に配慮した献立を工夫している。利用者も可能な範囲で準備や後片づけを職員と一緒にしている。行事食など食事が楽しみなものになるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は毎食専用の用紙に記入するようにし、バランスがとれたものになるよう考慮している。水分は、定期的また適時摂れるように支援し、生活状況シートに記入するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後口腔ケアを行うよう支援し、口腔内の清潔と誤嚥性肺炎の予防に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツ使用を減らすと行った取り組みは行っていないが、排泄の失敗や、不快感の軽減のために、サインを読み取る努力をしたり、適時排泄支援を行っている。	排泄チェックシートを活用し、一人ひとりのパターンを把握し、自尊心に配慮しながらトイレでの排泄を大切にしている。各居室にトイレと洗面所が設置されているので、自由に対応できる環境である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は、なるべく食物繊維を多く含んだものとなるようにし、生活上で、なるべく体を動かすようにしている。また、主治医の指示の基、下剤を活用し排泄コントロールがなされるように支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は、なるべく2日に1回は入れるようにし、希望時には、日中であればいつでも応じられるようにしている。	各人の希望に添った入浴ができるように支援している。一人ひとりがくつろいだ気分で入浴ができるように配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別のペースを尊重し、休みたい、交流したい、外出したいといったニーズに沿って支援するよう努力している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医から処方されている薬についての情報紙や、薬の辞書などを活用し、服用の時期や、その効果や副作用などを理解するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	馴染みの手仕事や、趣味など出来るだけ取り入れるようにしているが、十分とは言えない状況である。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	季節感を感じたり、五感を刺激したりすることを目的とした、小旅行を行っている。家族や地域を巻き込んだ形にはなっていない。	日常的には近隣の散歩や食材購入・買い物・ドライブなど戸外に出かけるよう支援している。さらに年間計画を立てて花見やミカン狩りなどにも出かけている。歩行困難な利用者も車椅子を利用して外出支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>紛失時の責任は負いかねることを事前に家族に説明同意を頂いた上で、所持金を所有している方はいる。そのお金で、買い物やされたりしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話は、施設の電話機を使用し、希望時には一緒にかけるようにしている。手紙についても希望時には、代筆も含め書き、送付したりしている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>不快感や混乱を招かないように、環境の工夫をし、外の風景を含め季節感を感じられるようにするなどの配慮をしている。室温や湿度にも気を配るようにしている。</p>	<p>共用の空間は換気や採光に配慮し明るく広々として開放感がある。利用者の作品や行事での参加写真・家族との交流写真等が掲示されている。中庭には花壇や菜園があり、季節を感じながら居心地よく過ごせるような工夫がされている。掃除も行き届き清潔である。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>個人の部屋で自由に過ごせたり、時には、部屋で交流をしたりもしている。ホールは複数箇所集えるスペースがあり、思い思いの場所で交流が出来るようになっている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れたものを持ち込んでいただけるよう、入居時等に案内し、私物や写真など持ち込まれている。</p>	<p>居室はトイレやクローゼット・洗面台・ベッド・冷暖房機器が備え付けてある。部屋は広く家族の写真などが飾られ、馴染みの物を持ち込み、居心地よく過ごせるように工夫されている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室やお風呂トイレなど、目印をつけるなどして、本人の力を使い、辿り着けるような工夫をしてある。タンスも収納用品を前面に掲示し、なるべく困らないような工夫をしてある。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない